

2021 年度 活動報告書



甲南大学 地域連携センター
学生コーディネーター「なんティア」

目次

1. 「なんティア」活動報告にあたって.....	2
2. 「なんティア」の概要.....	3
3. 全体的な取り組み.....	4
(1) 研修.....	4
(2) CHIIKI(地域)×GAKUSEI(学生)～マッチングプロジェクト2021～.....	5
(3) 龍谷大学ボランティア・NPO活動センターとの交流.....	6
(4) 学生ピア相談活動.....	7
(5) 広報活動.....	7
4. 各チームの取り組み.....	8
(1) コーディネーション班.....	8
(2) 広報チーム.....	9
(3) チームたまごっち.....	10
(4) 地域連携チーム.....	11
5. 活動を振り返って.....	12
(1) 年間スケジュール.....	12
(2) メンバーのコメント.....	13
(3) 2021年度メンバー一覧.....	16
<資料編>.....	17

1. 「なんティア」活動報告にあたって

甲南大学地域連携センター所長 石川 路子



2021年度から「念願の」地域連携センター学生コーディネーター「なんティア」が本格始動いたしました。

地域連携センターは、これまでさまざまな地域や団体との連携を深めると同時に、大学生が地域活動を通じて自身の成長につながるような機会を積極的に提供してきました。地域や大学生のニーズが多様化する中で、学生のボランティア活動／地域活動をより効果的かつ積極的に推進するには、学生や地域のニーズを的確に把握することは必要不可欠です。大学生と地域とのつながりの「しかけ」を創出するという目的を持つ「なんティア」と連携できることは、地域連携センターにとってはまさに念願であり、大変嬉しく思っております。

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、大学生の地域活動が大きく制限され、学生の「地域離れ」「ボランティア離れ」が危惧されていきました。しかしそのような状況にも関わらず20名を超える学生が第1期の学生コーディネーターとして参加してくれました。理系／文系を問わずさまざまな学部から手を上げていただけたことも、心強く感じています。地域連携センターフェローである岡村先生のご指導の下、確固とした目標を掲げ、役割分担をし、自律的かつ積極的に活動していただけていることについて、改めて感謝申し上げます。

「地域に関わってみたい」「さまざまな人とのつながりを広げたい」といった思いを持ちながらも、その一歩を踏み出す勇気がない「潜在的なニーズ」を持つ学生は多く存在します。また、自分たちの活動をほんの少し変えるだけで地域に大きく貢献できる課外活動団体もあります。そういった「勇気」や「気づき」を大学生や団体に提供する方法を（教職員が持ち得ない）新たな視座から検討／実践してくれるのがなんティアの存在意義だと考えています。

とは言っても、なんティアの皆さん一人ひとりが楽しみ、ワクワクしながら活動する姿そのものが、ボランティア活動や地域活動への参加に対するハードルを下げ、他の学生を誘引する大きな原動力となります。ぜひ一人でも多くの「仲間」を増やすような魅力的な活動を期待しています。この報告書の内容を踏まえつつ、今後は皆さんとの積極的な対話を通じてより学生に資する地域連携センターへと成長していきたいと思っています。一緒に頑張っていきましょう。

2. 「なんティア」の概要

「なんティア」とは、甲南大学地域連携センター(KOREC：コレック)の学生コーディネーターの名前です。「なんティア」は、KORECの教職員と協力しながら、学生と地域団体をつなぐボランティア活動に取り組んでいます。「なんティア」の名前の由来は、甲南×ボランティアの略称からきており、わかりやすく親しみやすい名前として命名しました。

2021年度の目標は「知名度向上、志願者増大、基盤構築」を掲げました。「知名度向上」はKOREC利用者を増やすこと、「志願者増大」は次年度の志願者を増やすこと、「基盤構築」はグループの基盤づくりをすること(慣れること、システムを構築つくること、自主性を育むこと)を目指しました。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、前期は主にオンラインで活動を行いましたが、後期からの活動はほぼ対面で行いメンバーとの親交を深めることができました。前後期それぞれ春の研修と秋の研修を経て、ボランティアやコーディネーションに関する知識を蓄えました。前期では、初めての活動として、NPO等の地域団体と学生のマッチングイベントのファシリテーターを担ったり、龍谷大学ボランティア・NPOセンターとの交流会を実施しました。後期では、学生ピア相談活動を開始し、また、①コーディネーション班、②たまごっち(リサイクル活動)、③広報チーム、④地域連携チームの4つのチームに分かれて活動しました。

運営面では、週1回の定例会のほかに、前期は代表1名・副代表1名、後期はチームリーダー4名も加わり、週1回の幹部ミーティングを実施し、今後の進捗について話し合いながら、進めました。現在、計21名のメンバーが活動しています(2021年12月末現在)。



KOREC 学生コーディネーター2021 集合写真 (2021年7月2日撮影)

3. 全体的な取り組み

(1) 研修

概要：活動に取り組むうえでの基礎研修を実施した。

①春の研修

- ・日時と参加者数

※時間はいずれも 16 時 20 分～17 時 50 分

(1 回目) 2021 年 5 月 28 日、参加者数：29 名

(2 回目) 同年 6 月 4 日、参加者数：27 名

- ・形式：オンライン

- ・内容：

(1 回目) テーマ：「ボランティア活動および地域連携活動について」

(2 回目) テーマ：「どういう地域連携センターにしたいか」



チーム決めワークショップ
(2021 年 7 月 10 日撮影)

②秋の研修

- ・日時と参加者数 ※時間はいずれも 16 時 20 分～17 時 50 分

(1 回目) 2021 年 9 月 24 日、参加者数：18 名

(2 回目) 同年 10 月 1 日、参加者数：18 名

- ・場所：甲南大学岡本キャンパス 5-23 講義室

- ・内容：

(1 回目) 「企画書をブラッシュアップしよう」

(2 回目) 「ボランティアコーディネーション研修」



ピア相談活動研修
(2021 年 10 月 1 日撮影)

③プレゼンテーション大会（審査会）

- ・日時：2021 年 10 月 8 日 16 時 20 分～17 時 50 分

- ・参加者数：18 名

- ・場所：甲南大学岡本キャンパス 5-23 講義室

- ・内容：各チームの企画書のプレゼンテーションと助言
(講評)・地域連携センター 所長 石川 路子 氏

・地域連携センター 課長 松下 賢一 氏, 衛藤 友紀 氏

④成果発表会および交代式

- ・日時：2021 年 12 月 24 日 (金) 16 時 30 分～18 時 00 分

- ・参加者数：18 名

- ・場所：甲南大学岡本キャンパス 5-23 講義室

- ・内容：各チームの成果報告／卒業する 4 年生の紹介
／代表、および新代表・副代表の挨拶

(講評)・地域連携センター 所長 石川 路子 氏

・地域連携センター 課長 松下 賢一 氏、家村 駿 氏、衛藤 友紀 氏

(2) CHIIKI(地域)×GAKUSEI(学生)～マッチングプロジェクト2021～

概要：地域連携センター(KOREC；コレック)が主催する「CHIIKI(地域)×GAKUSEI(学生)～マッチングプロジェクト2021～」のファシリテーターを担った。

- ・日時：2021年6月27日(土)10～13時
- ・参加者数：43名(内訳：甲南大学生20名、地域団体17団体23名)
- ・学生コーディネーター数：28名
- ・形式：オンライン
- ・活動報告：

当日は、Zoomのブレイクアウトルーム機能を用いて、2～3団体の地域団体と数名の学生とで複数のグループに分かれ、学生による簡単な自己紹介のあと、地域団体より、活動内容や団体の魅力、甲南大生を募集したい活動などについて説明を受けて、質疑応答を行った。一定の時間が来たら合図に従い、学生は次のグループに移動し、同じプロセスを6回繰り返して、学生がさまざまな地域団体を知る機会を作った。なお、当日の運営は、参加者のより深い相互理解を促すために、「なんティア」が進行や板書に取り組む等、小グループのファシリテーションを担った。

以下、アンケートより感想を抜粋する。

○学生

- ・興味のある団体、参加したい団体を見つけられて良かったです。
- ・とても良い機会になりました。団体の方々も短時間で分かりやすく説明していただき感謝しています。
- ・参加団体さんのことを、より深く知られて非常に良かったです。

○地域団体

- ・県外に居たが、Zoom開催のおかげで参加できました。
- ・コロナ禍で、学生と会う機会が無くなったので、久しぶりに学生と話せて楽しかったです。
- ・学生のやる気を感じられ、頼もしい限りです。
- ・オンラインで慣れないなか、学生COにサポートしていただけて無事に出来ました。学生COが一生懸命だったのが好印象でした。

事後行ったアンケートでは、8割以上の学生・地域団体から「大変満足・満足」との回答が得られた。学生コーディネーターとして初めての活動で至らない点多々あり、活動後の振り返りでは、メンバーで反省点を共有し改善案を議論した。今回の経験を生かして、今後はさらに有意義なイベントをめざしたい。

〔「甲南 Ch.」(2021年8月20日掲載)より一部加工して再掲〕

(3) 龍谷大学ボランティア・NPO 活動センターとの交流

概要： 龍谷大学ボランティア・NPO 活動センター（以下、龍大ボラセンと記す）の学生スタッフのみなさんと Zoom を利用して交流会を開催した。

- ・日時：2021 年 7 月 9 日（金）16 時 30 分～17 時 30 分
- ・参加者数：計 60 名（内訳：龍谷大学ボランティア・NPO 活動センター24 名、同大学職員 4 名、甲南大学生 29 名、同大学教職員 3 名）
- ・形式：オンライン
- ・活動報告：

◆交流会の内容

交流会では、まず龍大ボラセンの学生スタッフの皆さんから活動内容の説明を受けた。龍大ボラセンは 2021 年度に設立 20 年を迎え、「深草キャンパス」と「瀬田キャンパス」の 2 つのキャンパスにて、計 70 名ほどの学生スタッフが活動している。お話からは、『各グループに分かれそのグループごとに活動をしている』、『ボランティアコーディネートはシフト制で回している』、『合宿を行っている』など、興味深い運営の工夫や取り組みを知ることができた。



龍大ボラセンに送った色紙と写真
(2021 年 7 月 9 日実施)

事前に確認していた龍大ボラセンのホームページは内容が充実しており参考になるとともに、さらにたずねたいことがたくさん見つかった。そのため、後半の小グループでの質疑応答では、時間が足りなくなるほど質問が出た。初めは緊張している様子の参加者も、時間が経つにつれ笑顔が増え、交流会を楽しんでいた。

◆振り返り

後日、「なんティア」の定例会で交流会の振り返りをしたところ、『仲が良さそう』、『リユース活動に興味を持った』、『コーディネートをやる際の手助けになった』など、様々な感想を聞くことができた。また、参加学生の満足度はとても高く、『楽しかった』、『もう一度龍谷大学と交流会をしたい』、『もっと時間が欲しかった』と名残惜しさが語られるなど、私たちにとって本当に有意義で刺激的な時間となった。

「なんティア」は、まだ発足したばかりである。今回の交流会で龍大ボラセンから学んだことを活かし、これから「なんティア」がさらに成長していけるように頑張りたい。そしていつかまた、龍大ボラセンの学生スタッフの皆さんと交流できることを願っている。

〔「甲南 Ch.」(2021 年 9 月 6 日掲載) より一部加工して再掲〕

(4) 学生ピア相談活動

概要：主にボランティア活動について地域連携センターに相談に来た学生に、学生コーディネーターがサポートする。

- ・日時：2021年11月～2022年1月
- ・参加者数：実施6回、対応した学生数：3名、
学生コーディネーター人数：のべ9名
(2021年12月3日時点)
- ・場所：地域連携センター
- ・内容：地域連携センターを訪れた学生のボランティアの相談対応



学生ピア相談活動の様子と
新たに作成した告知看板

(5) 広報活動

概要：「なんティア」の活動について、広報活動を行った。

◎掲載媒体：KOREC ウェブサイト「活動報告」／甲南 Ch. 「地域連携」

◎内容：

- ・2021年7月20日：「KOREC 学生コーディネーター「なんティア」が誕生しました！」
中岡 真唯
- ・8月20日：「『CHIIKI (地域) ×GAKUSEI (学生) ～マッチングプロジェクト2021～』
を実施しました！」福谷 奈々
- ・9月7日：「龍谷大学との交流会」前田 心
- ・2022年1月7日：広報チーム「ボランティア参加者数増大に向けて」前田 心
- ・1月11日：コーディネーション班「甲南生のボランティア活動をサポートします！」
廣友 星菜
- ・1月12日：地域連携チーム「地域との基盤作り」高田 侑磨
- ・1月14日：チームたまごっち「使い捨てレンズの空ケースの回収を始めました！」
日比野 令旺

※個人のボランティア活動について、地域連携センターのウェブサイトで発信した。

◎掲載媒体：KOREC ウェブサイト「ボランティアイベントレポート」、

「学生コーディネーター『なんティア』メンバーからの活動報告」

◎内容：

- ・12月14日：「学習支援ボランティアに参加しました！」寺口 久美子
- ・12月14日：「夏休み防災未来学校2021 Online プログラムに出演しました！」廣友 星菜
- ・12月14日：「神戸みらい学習室(学園都市校)での活動記録です！」川村 美夢
- ・12月14日：「関西湾岸SDGsチャレンジに参加しました！」田村 百花
- ・12月14日：「『ALOHA KOBE 2021』のボランティアに参加しました！」橘 美奈

4. 各チームの取り組み

(1) コーディネーション班



コーディネーション班
(左から廣友星菜, 小紫理加, 倉本結夢)

私たちコーディネーション班は、ボランティア活動への第一歩をお手伝いすることを目的に、学生ピア相談の運営とボランティア体験談をまとめた冊子を作成している。小紫理加、倉本結夢、廣友星菜の計3名で活動をしている。

取り組み内容は、①ボランティア活動に関する調査、②ボランティア経験者へのインタビュー、③ボランティア体験談をまとめた冊子の作成、④学生ピア相談の管理である。①に関しては、地域連携セン

ターにボランティアや地域プロジェクトについて問い合わせに来た学生と現在ボランティアを探している学生21名への調査を行った。私たちは、ボランティア活動を始めたきっかけや活動のやりがいに関心があるだろうと仮説を立てたが、調査結果は異なった。ボランティア活動で活かされたことと、ボランティア活動先の団体の雰囲気、活動にかかる費用、スケジュール調整のしやすさに対して知りたいと答えた学生は70%以上だった。②に関しては、5名のボランティア活動経験者に協力をいただき、インタビューを行った。③に関しては、①と②の調査結果をもとに16ページの冊子を作成している。④に関しては、学生コーディネーターのシフト作成と日誌の管理を行った。



体験談をあつめた冊子の告知ポスター

◆成果

今年度の成果は次の通り。

- ・ボランティア活動に関する調査 回答数：21
- ・ボランティア経験者へのインタビュー 5名
- ・ボランティア体験談をまとめた冊子とその告知ポスターの作成
- ・学生ピア相談6回（2021年12月3日時点）の円滑な運営

◆今後の課題

今後の課題は、ボランティア体験をまとめた冊子の活用である。冊子利用者の感想をふまえて、より学生のニーズに合わせたボランティア体験の発信を目指す。また、ボランティアの楽しさを伝えるために掲載するボランティアの種類を豊富にしたい。

(2) 広報チーム



広報チーム（後列左から田村百花、前田心、橘美奈、前列左から佐々木亮哉、丸橋正幹）

私たち広報チームは、ボランティア参加者数を増やすことを目的に、主になんティアの活動内容の発信に取り組んでいる。前田心、佐々木亮哉、田村百花、佐々木千菜津（後期休み）、丸橋正幹、橘美奈、藤原美紀子（後期休み）の計7名で活動をしている。

取り組み内容は、①コーディネーション班が企画した「ピア相談」のチラシ作り、②甲南大学生に対し、地域連携センターの認知度・ボランティア活動に関する意識調査の実施、③SNS を利用した情報発信の基盤づくりである。

①に関しては、「ベーシックキャリアデザイン」、「共通基礎演習」、「産業と経済2」にて、計273部配布した。②に関しては、①の告知の際に併せて調査実施を行い、147回答を得た。③に関しては、KOREC 公式 LINE の作成をし、LINE の運用ルールや方針を決定した。

◆成果

今年度の成果は次の通り。

- ・ピア相談に関するチラシの配布 配布数：175部
- ・KOREC 認知度調査の実施 有効回答数：147（回答率53.8%）
- ・KOREC 公式 LINE の新設：2021年12月17日開設
- ・LINE によるボランティア情報の発行：1回（12月21日現在）

◆今後の課題

ボランティアに関する情報を、いかに学生に広く情報発信できるかということが根本的な課題である。また、LINE を中心とした情報発信を継続的に行う必要もある。今年度実施した認知度調査の結果を分析し、今後の広報の在り方を模索したい。



ピア相談活動を告知するチラシ



開設した地域連携センター公式 LINE
(2021年12月17日開設)



定例ゼミでの様子
(2021年10月15日撮影)

(3) チームたまごっち



チームたまごっちメンバー
(左から日比野令旺、寺口久美子)

私たちチームたまごちは、「プラスチックごみの削減」を目的に、「使い捨てレンズの空ケースの回収活動」に取り組んでいる。日比野令旺、寺口久美子の計2名で、様々な方々のご協力をいただきながら活動してきた。

コンタクトレンズ専門店の「アイシティ」が使い捨てレンズの空ケースを回収していることを知り、その活動を学内で始めることにした。回収ボックスの設置場所に関しては、実際に学内を歩き回り、2人で話し合いながら、学生の目に触れる場所を選んだ。また、学生部、管財部、生活協同組合と連絡を取り、回収ボックスの設置やポスター掲示の許可をいただいた。さらに、アイシティにも連絡を取り、回収ボックスやポスター、チラシの提供を受けた。様々な準備が整ったので、2021年12月3日(金)に回収ボックスとポスターを各所に設置し、回収活動を開始した。

◆成果

今年度の成果は次の通り。

- ・使い捨てレンズの回収ボックスを7か所に設置
- ・ポスターとデジタルサイネージを9か所に掲示
- ・2021年12月3日より使い捨てレンズの回収活動を開始(1年間を予定)



回収ボックス設置後の学生部前の様子

◆今後の課題

今後の課題としては、使い捨てレンズの空ケースを多く回収することができるよう、この取り組みの認知度を上げることが必要である。学内でのポスターやデジタルサイネージの掲示だけでなく、My KONANでの広報を行いたい。



回収ボックス設置の様子



←チームで制作した
オリジナルポスター

(4) 地域連携チーム



定例会での話し合いの様子
(2021年10月15日撮影)



岡本商店街振興組合との打ち合わせの様子
(2021年11月16日撮影)

私たち地域連携チームは、地域と学生を繋ぎ、岡本を盛り上げることを目的に岡本商店街振興組合（以下、組合と記す）と連携した企画に取り組んでいる。チームメンバーは中田朱音、福谷奈々、中岡真唯、古川葵、高田侑磨、川村美夢、阪本萌衣、松居ももか、広瀬翔鶴の計9名で活動している。具体的な取り組みとして、まず、商店街の活性化をめざして何らかの協力ができないかを組合に申し出た。話し合いの結果、組合が発行している冊子『岡本散歩』内の特集コラムの4ページ分を担当できるようになった。現在、特集ページの掲載店舗への取材に取り組んでいる。今後は、店舗への取材と原稿執筆を進め、2022年度の新入生への『岡本散歩』の配布をめざす。

◆成果

現時点（12/9）での今年度の成果は以下の通り。

- ・「岡本散歩」内の特集4頁の執筆
- ・特集ページの掲載店舗の決定と取材



The 甲南ハイボールでの取材の様子
(2021年12月20日撮影)

◆今後の課題

今後の課題として、誤植が無いよう注意しながら執筆を進めることである。また、今後は、飲食店と連携して何らかの企画を進めるという目標をめざして、地域連携チームと岡本商店街振興組合との連携をさらに深めていきたい。

5. 活動を振り返って

(1) 年間スケジュール

【前期】

日程	曜日	予定
5月14日	金	オリエンテーション、自己紹介
5月21日	金	チームビルディング
5月28日	金	【春の研修①】(講義；地域連携とは、ボランティアとは)
6月4日	金	【春の研修②】(どのような地域連携センターにしたいか、チーム名、代表・副代表決め)
6月11日	金	「CHIIKI×GAKUSEI」企画説明
6月18日	金	ファシリテーション研修、団体調べ
6月25日	金	「CHIIKI×GAKUSEI」リハーサル
6月27日	日	「CHIIKI×GAKUSEI」マッチングプロジェクト本番
7月2日	金	ふりかえり、龍大の視察準備
7月9日	金	龍大との交流会
7月10日	土	チーム決めワークショップ
7月16日	金	後期の活動に向けて(リーダー・サブリーダー決め)

【後期】

日程	曜日	予定
9月24日	金	【秋の研修①】(企画書をブラッシュアップしよう)
10月1日	金	【秋の研修②】(ボランティアコーディネーション研修、ピア相談研修)
10月8日	金	プレゼンテーション大会(審査会)
10月15日	金	チーム活動開始
10月22日	金	チーム活動
10月29日	金	(摂津祭のため休み)
11月5日	金	チーム活動
11月12日	金	チーム活動
11月19日	金	チーム活動
11月26日	金	チーム活動
12月3日	金	チーム活動、報告書作成
12月10日	金	チーム活動、報告書作成
12月17日	金	成果報告会の準備、2021年度目標に対する自己評価の検討
12月24日	金	成果報告会&交代式
1月7日	金	次年度に向けて(チームの決め方、新入生勧誘の準備)
1月14日	金	次年度に向けて(新入生勧誘の準備)

(2) メンバーのコメント

●今年度の活動に関する評価と次年度への期待

「なんティア」代表 中岡 真唯 (法学部2年生)

2021年度、私たちは「知名度向上、志願者増大、基盤構築」を目標に活動に取り組んだ。まず、知名度向上に関しては、広報チームが実施した KOREC 認知度調査によると、KOREC を「知らない」と回答した人は約7割 (105名, 71.4%)、「利用したことがある」と回答した人は4.8% (7名) と、決して高いとはいえない結果となった。しかし、今年度行った様々な活動により、来年度は今年度より高い数値を出すことが期待できることもふまえて、5段階評価で2.5とした。

次に、志願者増大に関しては、来年度の新入生歓迎のための取り組みで、志願者を増やすことをめざして、今年度の活動内容を充実させることができたが、メンバーの退部もあったため、5段階評価で2.0とした。

最後に、基盤構築に関しては、今年度発足ということもあり手探りでのスタートとなったが、様々な活動や研修を通じて組織としての力をつけることができた。また、各チーム活動でも、基盤作りとなる活動を十分に行うことができた。コーディネーション班では、学生ピア相談の仕組みを作ることで、次年度に取り組みを繋げる礎ができた。広報チームでは、地域連携センターの公式LINEを作り、来年度の広報のツールを作った。チームたまごっちでは、目標としているプラスチックごみの削減の足がかりとして、コンタクトレンズの空ケースの回収を開始した。地域連携チームでは、岡本商店街振興組合が発刊している冊子『岡本散歩』の特集ページを編纂を通じて、地域との関係性を築くきっかけを作ることができた。以上を総じて、5段階評価で4.0とした。

前期はオンラインでの活動がほとんどで、思うように活動できないことが多かったが、後期からは対面での活動となり、学生同士楽しく活動を行うことができた。全体の活動はもとよりチームでの活動も広がり、できることが増えてきたので、来年度は「なんティア」をもっと活発化していきたい。

●新しく創り上げる楽しさと苦勞を存分に味わう

甲南大学 共通教育センター／地域連携センター フェロー兼務 特任准教授 岡村こず恵

KOREC 学生コーディネーター「なんティア」の活動が、2021年によりやく産声を上げました。2年以上前から地域連携センター (KOREC) 内での話し合いや他校の視察など準備を重ねてきましたが、新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、兵庫県に第3次緊急事態宣言が出されている中での船出でした。そのような状況でも、説明会には約50名もの参加があり、「何かに取り組みたい」という学生の皆さんの熱意が痛いほど伝わってきました。

活動の初年度として、新しく創り上げる楽しさと苦勞を存分に味わうことができたように思います。今後も、学生の目線を生かして、甲南生と地域をつなぐ様々な活動を創り出されることを願っています。



目標に対する自己評価

●活動を振り返って

<p>新型コロナの影響で思うように活動できない時期もありましたが、大好きなボランティアに関わる活動に参加することができて、非常に良かったです。これからも後輩にはこの活動を続けていってほしいなと思っています。</p> <p>寺口 久美子 (チームたまごっち)</p>	<p>冊子の作成やピア相談など新しいことに取り組むことができ、楽しい時間を過ごすことができました。これからは、なんティアの活躍と甲南生のボランティア活動の参加を願っています。</p> <p>廣友 星菜 (コーディネーション班)</p>
<p>ボランティアに関する活動や組織の運営に携わりたいと考え、参加しました。チーム活動においては、ひとつの目標向かって試行錯誤することで企画力や協調性が身についたと思います。貴重な体験ができました。</p> <p>小紫 理加 (コーディネーション班)</p>	<p>自分がやりたいと思うことを、カタチにすることが可能な環境で、改めて色々な方に支えられていることを実感しました。ボランティアは、ハードルが高いものではなく身近なものだと感じ楽しんでもらいたいです。</p> <p>福谷 奈々 (地域連携チーム)</p>
<p>チーム活動も初めてだったので、自分たちでいちから作り上げていく楽しさや難しさ、どんなアイデアでも相案外賛成してもらえること、大人を頼ることの重要性を学びました。他ではできない経験がたくさんありました！</p> <p>古川 葵 (地域連携チーム)</p>	<p>コロナ禍で初めから自分たちで組織作りをしていき、普段ではお話しする機会がない方々と意見を交える貴重な経験をさせていただきました。次に続く皆さんにも、授業では学べない体験をして欲しいなと思います。</p> <p>川村 美夢 (地域連携チーム)</p>
<p>前期はコロナ禍でオンラインで活動するなど制限が多くありましたが、後期はチームでいろんな方々の協力を頂きながら活動でき、普段の大学生活ではできない貴重な経験ができました。来年度はコロナ禍が落ち着くことを願いながら、楽しく活動し「なんティア」が発展できればと思います。</p> <p>日比野 令旺 (チームたまごっち)</p>	<p>なんティアでは自分たちで企画、プレゼン、実行するという貴重な体験ができました。自分一人ではやり遂げられないことばかりで、チーム活動の大切さを学びました。</p> <p>マッチングイベントの運営や冊子作成を通し、私自身のボランティアへの興味もより深まり、良い機会になりました。</p> <p>倉本 結夢 (コーディネーション班)</p>
<p>始まってからはしばらくの間はオンラインでのミーティングで不便さを感じる時もありました。しかし、他大学との交流や地域の方との企画を通じて、一つ一つの確認の大切さと大変さを実感しました。今後も様々な企画を通して、団体のみんなとともに成長できたら良いなと思っています。</p> <p>高田 侑磨 (地域連携チーム)</p>	<p>私にとって初めてのことが多く、いろいろな経験をすることができ、良い一年になりました。コロナ禍であまり自由に活動することができなかったので、これからさらに大きな活動ができれば良いなと思います。</p> <p>前田 心 (広報チーム)</p>

<p>制限がある中での活動でしたが、後期の活動ではチームに分かれて活動を行い、色々な経験が出来たと感じています。</p> <p>チーム活動の中で、地域の企業や団体と企画を進めるということがいかに大変で責任が重いかということを学ぶことが出来ました。今年度での活動で得ることが出来た学びを今後の活動でも生かしていきたいと思っています。</p> <p style="text-align: right;">中田 朱音 (地域連携チーム)</p>	<p>コロナ禍で制限がある中でしたが、一から組織作りに携わることが出来、特にチーム活動では様々な貴重な経験をさせて頂きました。</p> <p>次に続く皆さんにも、なんティアの活動をさらにより良いものにして欲しいなと思います。</p> <p style="text-align: right;">田村 百花 (広報チーム)</p>
<p>本年度の発足で、貴重な経験ができたなと思います。イベントやピア相談を通して、ボランティア活動と学生さんをつなぐ難しさを実感しました。</p> <p>次年度は、チームなんティアと共に学生COとして成長できるよう精進したいと思います。</p> <p style="text-align: right;">佐々木 千菜津 (広報チーム)</p>	<p>大学入学と同時にボランティア活動を始め人脈や貴重な経験を得ることができ、このなんティアでの活動を通じても得られたものも多くありました。</p> <p>この経験を活かして今後につなげて行こうと思います。そして、この活動に携わる全ての方々に感謝申し上げます。</p> <p style="text-align: right;">佐々木 亮哉 (広報チーム)</p>
<p>制限が多い中でも、幅広い活動や経験が出来ました。また、地域と連携することの責任の重大さや難しさも痛感しました。</p> <p>今後はさらに、チームの団結力を高めながら新たな企画や活動ができるよう努めていきたいです。</p> <p style="text-align: right;">松居 ももか (地域連携チーム)</p>	<p>一からみんなで企画を作っていくという貴重な経験が出来て良かったです。司会進行や大勢の前で発表する機会が今まで少なかったので、なんティアの活動を通じて自分自身に成長を感じました。</p> <p>これからの活動での自分の飛躍に期待していきたいです。</p> <p style="text-align: right;">阪本 萌衣 (地域連携チーム)</p>
<p>広報チームで調査を実施したり、ピア相談のチラシを作成・配布したりと、自分にとって初の試みとなる活動を通して様々な力を身につけることが出来ました。今後もなんティアと自身のさらなるパワーアップを目指し、より良い活動が出来るよう頑張ります。</p> <p style="text-align: right;">橘 美奈 (広報チーム)</p>	<p>ボランティアに携わる方々にお話を伺う機会と、より多くの学生に認知と興味を抱いてもらうため、チームのみんなで試行錯誤し、新たなことに挑戦する貴重な経験ができました。</p> <p>来年度はさらなる「なんティア」の進化に向けて積極的に活動していきたいです。</p> <p style="text-align: right;">藤原 美紀子 (広報チーム)</p>
<p>今年発足したかつコロナ禍ということもあり、様々な苦労がありましたが、結果としては非常に有意義な時間を送ることができました。</p> <p>活動に協力してくださったすべての方々に、厚く御礼申し上げます。</p> <p style="text-align: right;">丸橋 正幹 (広報チーム)</p>	<p>僕自身前期しか活動はできていませんが、グループに分かれ決めていく、自分が参加できていると言う感覚が凄く楽しかったです。来年の前期から参加を再開したいと考えていますが、その際はできなかった分活動に力を入れていきます。後輩の皆さんは是非楽しいので、活動に参加してくれることを楽しみにしています！</p> <p style="text-align: right;">広瀬 翔鶴 (地域連携チーム)</p>

(3) 2021 年度メンバー一覧

※在籍者数：21 名（2021 年 12 月末現在）（敬称略）

<幹部メンバー>

- ・代表：中岡 真唯（法学部 2 年生）
- ・広報担当：福谷 奈々（経営学部 3 年生）／前田 心（経済学部 2 年生）
- ・データ担当：小紫 理加（経済学部 3 年生）
- ・会計：高田 侑磨（経済学部 2 年生）
- ・各チームリーダー：小紫 理加（経済学部 3 年生）、前田 心（経済学部 2 年生）
中田 朱音（法学部 2 年生）、日比野 令旺（文学部社会学科 2 年生）

◆コーディネーション班

- ・リーダー：小紫 理加（経済学部 3 年生）
- ・サブリーダー：倉本 結夢（文学部人間科学科 2 年生）
- ・調査担当：廣友 星菜（経営学部 4 年生）

◆広報チーム

- ・リーダー：前田 心（経済学部 2 年生）
- ・サブリーダー：佐々木 亮哉（経済学部 1 年生）
- ・調査担当：橘 美奈（経営学部 1 年生）
- ・メンバー：田村 百花（理工学部生物学科 2 年生）、丸橋 正幹（経営学部 1 年生）、
藤原 美紀子（経営学部 1 年生、後期休み）、
佐々木 千葉津（マネジメント創造学部 2 年生、後期休み）

◆チームたまごっち（リサイクル活動）

- ・リーダー：日比野 令旺（文学部社会学科 2 年生）
- ・サブリーダー：寺口 久美子（文学部人間科学科 4 年生）

◆地域連携チーム

- ・リーダー：中田 朱音（法学部 2 年生）
- ・サブリーダー：福谷 奈々（経営学部 3 年生）
- ・メンバー：古川 葵（文学部日本語日本文学科 2 年生）、
川村 美夢（文学部社会学科 2 年生）、高田 侑磨（経済学部 2 年生）、
中岡 真唯（法学部 2 年生）、松居 ももか（経済学部 1 年生）、
阪本 萌衣（法学部 1 年生）、広瀬 翔鶴（マネジメント創造学部 1 年生、後期休み）

<資料編>

1. ボランティアに関するニーズ調査分析（コーディネーション班）

(1) 調査概要

- 調査日：2021年11月4日～18日
- 調査対象：21名（内訳：KORECにボランティアなどの問い合わせに来た学生8名、なんティアに所属する学生13名）
- 調査方法：紙アンケート、回答率100%
- 調査目的：KORECを訪れる学生の相談ニーズを明らかにして、冊子の掲載内容の参考にすること。

(2) アンケート調査結果【抜粋】

「ボランティア活動を探す上で、以下の項目はどの程度知りたいですか」との問いに、「ボランティア活動で活かされたこと」、「ボランティア活動先の団体の雰囲気」、「活動にかかる費用」、「スケジュール調整のしやすさ」に対して知りたいと答えた学生は、7割を超えた。一方で、「ボランティア活動を始めたきっかけ」は、約3割の学生に留まった。

次に、一般学生と学生コーディネーターを比較した。「ボランティアで活かされたこと」と、「ボランティア活動先の団体の雰囲気」に対しては、両者とも7割以上の学生が知りたいと答えた。一方で、結果が大きく結果が異なったのは、「ボランティア活動で大変だったこと」や「苦労したこと」である。一般学生の75%が「知りたい」と答えたが、学生コーディネーターで「知りたい」と答えた割合は38%であった【図1】。学生コーディネーターは、ボランティア活動経験者が多いため、活動の特徴は把握できているためだと考えられる。

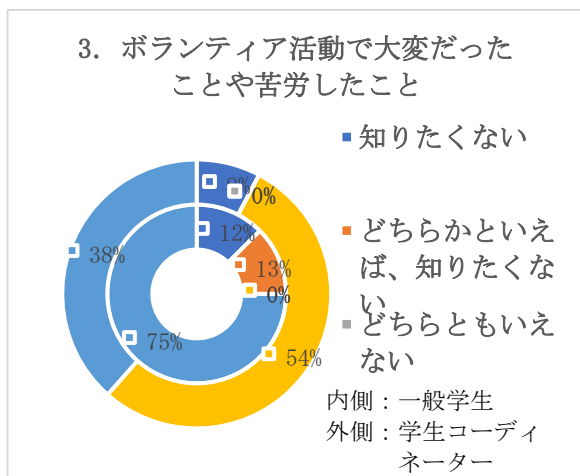


図1 「ボランティア活動希望者へのニーズ調査」より

項目	とても知りたい	知りたい	どちらかといえば、知りたい	どちらともいえない	知りたくない
1. ボランティア活動経験者の話を聴きたい	1	2	3	4	5
2. ボランティア活動のやりがい	1	2	3	4	5
3. ボランティア活動が大変だったことや苦労したこと	1	2	3	4	5
4. ボランティアの経験が活かされたこと(就職活動など)	1	2	3	4	5
5. 活動するときに苦痛を感じる	1	2	3	4	5
6. ボランティア活動先の団体の雰囲気	1	2	3	4	5
7. どのようになりたいのか	1	2	3	4	5
8. 活動にかかる費用	1	2	3	4	5
9. SNS(ホームページ)を通して(電話やメール)との対応	1	2	3	4	5
10. 活動の申し込み	1	2	3	4	5

「ボランティア活動希望者へのニーズ調査」調査シート

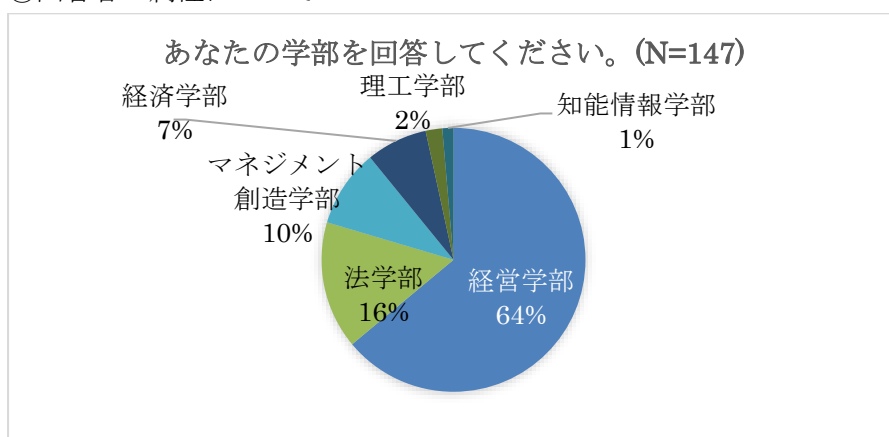
2. 「地域連携センター（KOREC）の認知度、および、ボランティア・地域連携活動に関する意識調査」結果分析（広報チーム）

（1）調査概要

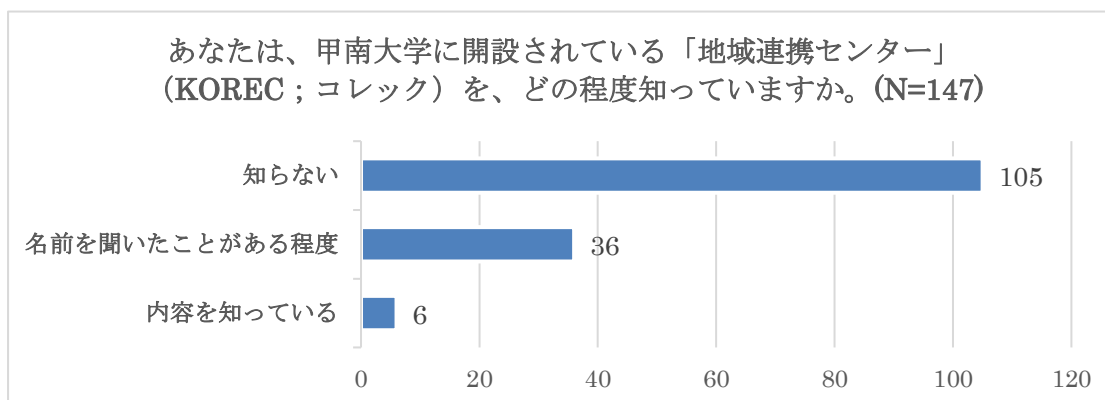
- 調査日：2021年12月2日～10日
- 調査対象：「ベーシックキャリアデザイン」、「共通基礎演習」、「産業と経済2」の履修者 計273名
- 調査方法：Microsoft Formsを使ったインターネットによるアンケート調査。授業にて調査協力を求めた。
- 配布数：273、有効回答数：147（1年生が83.7%を占める）、回収率53.8%

（2）調査結果【抜粋】

①回答者の属性について

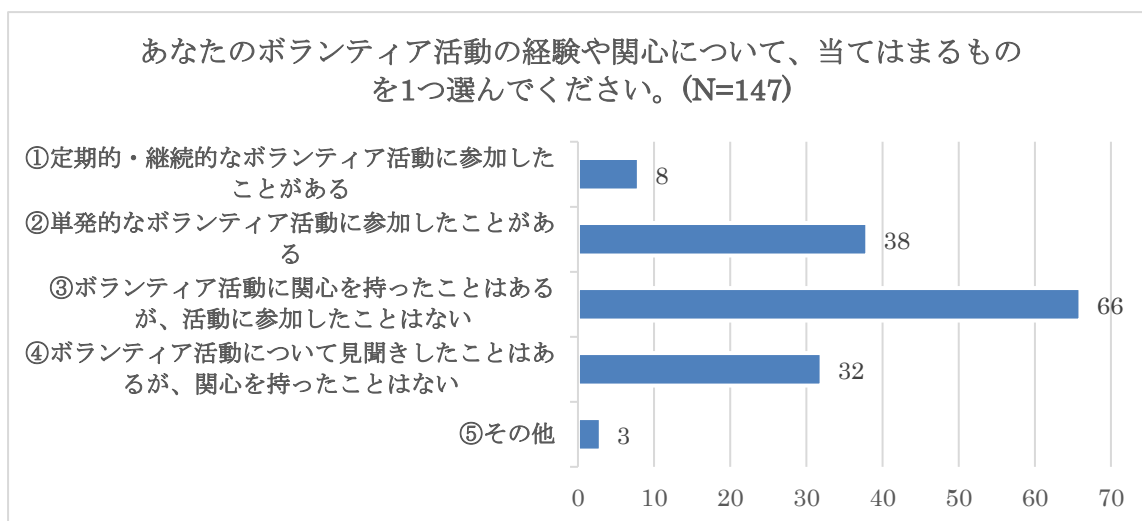


②地域連携センターの認知度について



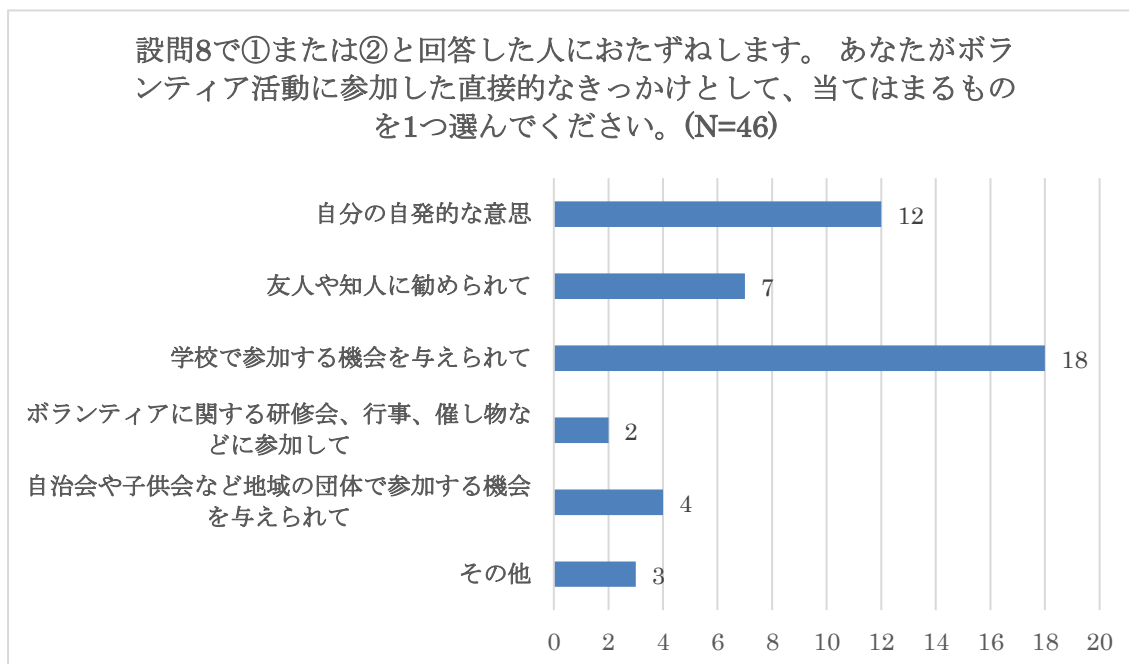
全体のうち、約71%にあたる105名が「地域連携センターを知らない」と答えた。

③ ボランティア活動の経験や関心について



「ボランティアに参加したことがある」、あるいは「関心を持ったことがある」と回答した人は7割近くを占めた(68.7%)。一方で、「ボランティア活動に関心を持ったことはあるが、活動に参加したことはない」と回答した人は4割を超えた(44.9%)。関心を持っているが、まだ活動に参加していない人に対して、いかに働きかけるかが課題である。

④ ボランティア活動に参加した直接的なきっかけ



活動に参加したきっかけは、「学校で参加する機会を与えられて」、「友人や知人に勧められて」、「自分の自発的な意思」が上位を占める。通常の募集告知に加えて、初めての人が活動に参加するための機会や、友人・知人が誘いやすい環境、参加する意欲の高まりに合わせた情報提供など、参加者の意向に合わせた活動促進策が求められていると言える。

甲南大学 地域連携センター
KOREC 学生コーディネーター「なんティア」
2021 年度 活動報告書

編集・発行 甲南大学 地域連携センター
電話：078-435-2276
発行日 2022 年 1 月 31 日

